

保健体育科学習指導案

指導者 教諭 中居 宏彰

1 学級 第3学年1・2組 (1組男子17名, 2組男子17名) 体育館

2 題材 球技「ネット型(バドミントン)」

3 題材について

(1) 球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。バドミントンは、1対1や2対2でネットを挟んで相手と向かい合い、ラケットを操作して様々な打球を打ち、いかに相手コートに落とすか、そして得点を重ねていくかを競い合う「ネット型」の運動であり、攻守の切り替えが非常に速いという特徴がある。したがって、「どこにどんな打球を打ったらよいのか」「相手がどこへどんな打球を打とうとしているのか」を短時間で考え判断しなければならない場面がある。また、色々なストロークを使ってラリーを続けたり、相手を惑わす打球(緩急をつけた打球や相手を前後左右に揺さぶる打球)を打って得点を競い合ったりする楽しさがある。相手の特徴を分析して作戦を考えたり、対戦した相手や自分のチームの特徴を考えて作戦を考えたりするなどの楽しさもある。これらの特徴を生かすことで、活動への興味・関心をもたせ、意欲的に運動させることができたり、攻守の仕方を個人や集団で見付けることで、思考力や判断力を養うことにつながったりすると考える。

(2) 本学級の生徒(1組男子17名、2組男子17名、計34名)は体育への興味関心は高い。また、話をしっかり聞き、行動に移すことのできる生徒が多く、運動に積極的に取り組んだり、仲間と協力したりしながら、お互いに高めあうことのできる集団である。

今までのネット型の競技は、バレーボールを実施している。バドミントンについては初めての種目であり、基本技術が十分身に付いているとは言えない。また、経験したことがある生徒とそうでない生徒での技術面での差が大きい。

(3) 本題材では基本技術の習得とともに、対人的技能、集団的スキルを身に付けさせたい。そのために、基本技術であるラケット操作やシャトルを持たないときの動きを、グループ活動を通して学習させたい。その際には映像から技能のポイントを考えさせ、それを技能のポイントとしてまとめる作業を行い、知識としての定着とともに技能も身に付けさせる。そして、身に付けた技能を対抗戦につなげ、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開することができるようにしていきたい。

4 学習指導目標

- ・ 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開することができる。
- ・ バドミントンに自主的に取り組むとともに、自己の責任を果たそうとすること、作戦などについて話し合いに貢献しようとする事、健康・安全を確保することができる。
- ・ バドミントンの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できる。

5 学習指導計画

- (1) バドミントンの特性、歴史、学習の進め方などを理解する。…1時間
- (2) いろいろなストロークを身に付ける。…3時間
- (3) 個人的なスキルを高めながらゲームをする。…1時間(本時)
- (4) 相手や状況に応じたスキルを高めながらゲームをする。…3時間
- (5) 学習を振り返り、成果を確かめ合うゲームをする。…1時間

6 本時の学習指導

(1) 目標

- ・互いに助け合い、教え合おうとすることができる。
- ・分析カードをもとに、得点に結びつけるための効果的な攻撃方法を考えることができる。

(2) 本時の「東中授業八策」における学びの視点からイメージする生徒の姿

6 意欲化を図るための工夫（交流の場や選択・意思決定の場の設定）

シャトルの動きを記録した分析カードをもとに、「どのような練習が必要なのか」「どんな打球をうったらよいのか」をグループで考えさせる。互いの考えや気づきを共有しながら、意見の交流を繰り返す。

(3) 学習指導過程

学 習 活 動		教師の指導と支援活動
形態	内 容	
	1 準備運動をする。 ・準備運動・補強運動 ・ドリル練習	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の分析カードをもとに、自分の課題を確認させる。 ・グループごとに協力させ、基本的なケース練習をしながら、技能の習得を目指させる。 ・シャトルやラケット、身体操作に慣れることを念頭に置き、楽しい雰囲気で行うようにさせる。
	2 学習課題を確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 学習課題 得点に結びつけるために、効果的な返球をするには、どうすればよいだろうか。 </div>
	3 相手から返球されるケースをもとに、意見を確認しながら、グループで練習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・練習は分析カードをもとにケースを想定させ、目標や課題が意識された、複雑でないものを考えさせる。 ・練習するだけでなく、互いにポイントを中心に観察したり、質問や助言を短時間で簡潔に行わせたりする。 例：ネット際に打ったら、次は奥が空くのではないか。 ：狙って、打球を打ち分ければどうだろう。 ：相手が打ちにくい場所はどこだろう。 ：コート中央に戻るようにすればいいのでは。 ・特定の作戦や戦術、練習方法しか思いつかないグループには、他グループと自グループのアイデアを比べ、それぞれの特徴をとらえてみるように促す。
 	4 グループで対抗戦を行う。 ・前半戦 ・確認タイム ・後半戦	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイントやキーワード、仲間からの助言などを参考にさせながらゲームや確認タイムを進めさせる。 ・前半戦で記録してもらった分析カードをもとに、良かったところや後半戦に向けての作戦を話し合わせる。 ・それぞれの良さを積極的に賞賛し、ゲーム後半の意欲付けをする。
	5 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに振り返り、共有し合わせる。 ・練習やゲームを通して学び合ったことや成果、課題などを全体の場で交換させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 振り返り 返球による相手への効果や相手の位置の前後左右への意図的な攻め方を考えることが大切である。 </div>

(4) 評価

- ・互いに助け合い、教え合おうとすることができたか。
- ・選んだ作戦をもとに、得点に結びつけるための効果的な攻撃を考えて発言したり、記述したりすることができたか。